

**WEEKLY SIGNAL**

2020年6月19日(金) 1529号

**上田八木短資株式会社**

**来週の市場とレート予想**

	6/22 (月)	6/23 (火)	6/24 (水)	6/25 (木)	6/26 (金)
無担保O/N			△ 0 . 0 8 7 % ~ 0 . 0 0 1 %		
銀行券	△ 800	△ 1,000	△ 1,000	△ 1,000	△ 1,000
財政他	+ 75,700	+ 4,000	+ 1,000	+ 3,000	△ 6,000
資金需給	+ 74,900	+ 3,000	ト ン	+ 2,000	△ 7,000
主な要因	国債償還(5年・10年・20年) 国庫短期証券発行・償還(3M)				国債発行(20年)
オペ期日	CP買入 補完供給	△ 100 + 100		新型コロナ企業支援特別	△ 34,000 米ドル資金供給用担保国債供給 + 28,900
オペスタート					
(日本)		日銀営業毎旬報告(6月20日現在) 全国百貨店売上高(5月) 工作機械受注(5月)	金融政策決定会合における主な意見 (6月15日、16日分) 景気一致指数(4月)	対外・対内証券投資(6月14日-20日) 全産業活動指数(4月)	東京都都区消費者物価指数(6月)
(海外)	米 中古住宅販売件数(5月) ユーロ 消費者信頼感指数(6月)	米 新築住宅販売件数(5月) 米 PMI(6月) ユーロ PMI(6月)	IMFの経済見通し 独 IFO企業景況感指数(6月)	米 FRBが大手金融機関の ストレステスト結果発表 米 耐久財受注(5月) 米 新規失業保険申請件数 (20日終了週)	米 個人所得・支出(5月) ユーロ マネーサプライ

**<インターバンク市場>**

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.030 ~ 0.030
SPOT 2M	△0.020 ~ 0.040
SPOT 3M	0.000 ~ 0.070
SPOT 6M	0.000 ~ 0.130

**<インターバンク>**

日銀当座預金残高は週初、423兆1,500億円から始まり、17日までに、財政等要因などを主因に418兆円台まで減少した。その後、同残高は国債・国庫短期証券買入や米ドル資金供給用担保国債供給の期日などを要因として増加に転じ、週末には430兆1,500億円となった。

無担保コールON物加重平均金利は、新積み期に入ると、大手行中心の調達となり18日まで△0.056~△0.055%のレンジで推移した。週末となる19日は、一部で調達ニーズが高まったことで、同金利は△0.042%となった。ターム物は1~2W物を中心に△0.08%~△0.06%の水準で取引された。

日銀は15日-16日に行われた金融政策決定会合で、2020年度第2次補正予算の成立を受け、「新型コロナ対応資金繰り支援特別プログラム」の総枠を75兆円から110兆円へ増加させることを決定した。

来週、国内では、日銀金融政策決定会合の主な意見(6/15-16開催分)(24日)、6月の都区部消費者物価指数(26日)、海外では国際通貨基金(IMF)の経済見通し(24日)、5月の米耐久財受注(25日)などが予定されている。

**<オープン市場>**

CP3M(a-1+)	△0.01 ~ 0.00
TDB 3M	△0.140 ~ △0.095
現先(on/1w)	△0.04 ~ 0.00

**<C P>**

今週の入札発行総額は約5,800億円で、週間償還額(約5,600億円)を上回った。発行市場は、5・10日発行案件は少なかったものの電気機器や石油業態等の大型案件が実施され活況となった。発行残高は、先週末の24兆8,125億円から18日時点では24兆8,200億円弱と若干増加した模様。発行レートは浅いマイナスから0%近辺での出合いが中心であったが、引き続き一部銘柄で下限レートを切り下げる動きも見られた。

来週の週間償還額は、月末日の大量償還(約1兆9,900億円)を含み約2兆4,400億円となっている。四半期末決算での残高調整を行う企業もあって、月末残高は大幅に減少し、24兆円前後と思われる。発行レートは、0%近辺の横ばい圏内の出合いを予想する。26日に、CP等買入オペアが6,000億円で開催される予定。

**<TDB>**

15日の6M915回債(12/25償還)の入札は、最高落札利回り△0.1733%(前回債△0.1733%)、平均落札利回り△0.1753%(同△0.1753%)となり、入札後△0.185%で取引が見られた。18日の1Y916回債(6/21償還)の入札は、最高落札利回り△0.1931%(前回債△0.1607%)、平均落札利回り△0.1961%(同△0.1657%)となり、入札後△0.213%~△0.218%のレンジで取引された。19日の3M917回債(9/23償還)の入札は、最高落札利回り△0.1020%(同△0.0982%)、平均落札利回り△0.1071%(同△0.1018%)となり、入札後△0.104%~△0.107%のレンジで出合いが散見された。そのほかセカンダリーでは3M914回債(9/14償還)は△0.115%~△0.132%、同912回債(9/7償還)は△0.12%、6M913回債(12/10償還)は△0.180%で出合いが見られた。また7月償還物で△0.150%、8月償還物で△0.120%での取引が見られた。

**<レポ>**

足許GC取引は週初△0.07%~△0.055%の出合いが中心。短国買入オペアがオフアされた18日受渡しでは、△0.085%~△0.07%ヘレートは低下した。その後、短国3M・1Yの発行が重なった22日受渡しはレートが上昇し、△0.07%~△0.05%で取引された。SC取引では、2年401~413回債、5年137~143回債、10年336~358回債、20年164~172回債、30年59~66回債、40年9~13回債などに引合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。